

【学年】 1年      【教科・単元など】 算数 「どちらがながい」

○本時目標

身の回りの長さに関心を持ち、直接比較、間接比較の方法で比べることができる。

○本時展開

- ①子どもたちに、一人一本、長さの違う紙テープを配布する。
- ②「誰のが一番長いかな？」と問いかける。その後、どうしたらわかるか、はっきりさせる方法を出し合う。

配布したところで、投げかけようとした発問は「誰のが一番長いかな」だが、紙テープが手元に来た時点で子どもたちは、「みんな違う長さだよ。」「〇〇君のは私より長いかも。」「一番長いのは僕かも。」とつぶやいていた。

「一番長いのは△△君のじゃない？」と言っていた子がいたので、「どうしてそう思ったの？」と聞いたところ、「長そうに見えたから。」と答えた。「本当にそうかな？」と返すと。子どもたちは「うーん。」「僕も長いよ。」「比べてみたい。」と言い出したので、時間を区切り自由に比べる時間を取った。

比べて方を見ていると、重ねてか、床に並べてかの直接比較だったが、端っこがばらばらになっているところもあったので、再度比べている様子に注目させると、「あれ？はっきりしない。」「ばらばらじゃん。」「これ、ずるいよ。」などと意見が出た。置き方に気を付けないと、正確ではないことに気付く子も出たので、比べるときにどんなことに気を付けなければいけないかや、重ねると比べられることをおさえた。そして、誰のが一番長いかはっきりした。
- ③自分の紙テープの長さを比べることから、身の回りにあるものの長さを比べることに興味を持った子どもたちは、黒板や机、オルガンの長さも比べてみたいと話していたので、「じゃあ、どうやって比べようか」と聞いた。子どもたちは、紙テープのように重ねられないことには気づいたようだが、多くの子は悩んでいた。すると、「今日みたいな紐（紙テープ）があればいいんじゃない？あれば重ねられなくてもできるよ。」と発言した子がいた。なぜそう思ったかを全体で共有し、納得することができたので、次時は紙テープを用意し、比べたかった長さを比べることにした。

【子どもの様子・反省】

教科書では、「どちらがながい」という発問から学習に入っているが、本時は複数の物を比べることから入ったため、比べる対象が多すぎてしまったようだ。子どもたちにわかりやすくするには、2択もしくは3択くらいが適当だったのかもしれない。また、見て明らかに自分のは短いとわかった子については、最後まで関心が持続しなかった様子も見られた。

今回、「誰が長いかはっきりさせたい。それにはどうしたらいいんだろう？」と比べ方を考え、やってみたいと思う意欲を知的的好奇心と捉えた。やってみようと考え、実際に作業をしていく中で、子どもたちはさらに意欲を持った。これからも体験的なことを取り入れ、考え、実行しながら学ぶ機会を多くしていきたい。